

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 計画

学校名	吉野ヶ里町立東脊振小学校
-----	--------------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・基礎学力向上のためにスキルタイムの内容の見直しを図り、週2回実施した。児童が音読や計算に熱心に取り組む姿が見られた。また、同時並行で授業づくりにも取り組んだ。話し合い活動の工夫を行い、児童の主体性、思考力、表現力を高める取組を行った。 ・学校全体が落ち着いた雰囲気の中教育活動が行えた。コロナの状況も落ち着き、様々な教育活動も制限なく行うことが可能となった。中でも毎月の生活朝会は、全校児童が体育館に一同に会し、担当教員から生活の話を直接聞く機会である。時には寸劇やクイズ等の工夫をしながら子供達の心に残る指導を心掛けてきた。その結果、元気にあいさつをしてくれる児童も随分と増え、明るい学校となった。
------------------	--

2 学校教育目標	夢に向かって共にのびる児童の育成 ～かしこく やさしく たくましく～
----------	---------------------------------------

3 本年度の重点目標	①スキルタイムの工夫と児童の実態に合わせた授業づくり等により、児童の基礎学力の定着と学習意欲の向上を図る。 ②職員間の共通理解のもと、生徒指導事案の組織的に対応することにより、落ち着いた学校をつくっていくとともに、児童が自分の夢や目標に向かって前向きに努力したいと思える教育活動を進めていく。 ③体育の時間の充実や休み時間の外遊びの奨励により、児童の体力アップを図ると共に、様々な体験活動や地域との交流を通して自分に自信をもち、チャレンジ精神と粘り強さ、郷土愛を育てる。
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

共通評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○基礎学力の定着と学習意欲の向上	○客観的データにより、漢字や計算スキルの向上がみられた児童85%以上 ○国語、算数の学習に前向きに取り組む児童85%以上	・スキルタイムの内容と方法の工夫 ・児童の実態に合わせた導入の工夫や話し合い等を取り入れた授業づくり ・1人1台端末の効果的な活用。	B	・全国調査、県調査の結果を考察し、本校の課題を洗い出すと共に、全学年において学力向上につながる具体的な手立てを講じているところである。 ・国語、算数の学習に前向きに取り組んでいる児童94.7%。(児童アンケート結果)	B	・国語、算数の学習に前向きに取り組んでいる児童99%。(児童アンケート結果) ・国語、算数のCRTの結果は、全国平均に達していたのは、1年国語、算数、2年算数であった。 ・長文を読んで要点をまとめたり、図や式を説明したりする問題に課題が見られた。 ・今後は、家庭学習の工夫や1人1台端末の効果的な活用などに進めていく必要がある。	B	・授業の中で児童同士が学び合う場を設け、考えたことを伝え合うことでお互いの学力が高まるのではないかと。 ・要点をまとめる力を養うには、自分が読んだ本を紹介する活動が効果的だという事例がある。学習の中で取り入れてみるのも良いのではないかと。 ・優れた文学作品に触れさせ、繰り返し声に出して読んでも大切な学習である。	学力向上コーディネーター 研究主任
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動することなど、豊かな心を身に付ける教育活動	○「友達と仲良くできている」「良いこと悪いことを考えながら生活している」と答える児童を90%以上	・年間3回の人権教室(集会)をはじめ、道徳や様々な教育活動の中で、児童の人権意識を高め、思いやりの心を育てる。	A	・「よくできている」「だいたいでできている」を合わせて、友達と仲良くできている児童96%、きまりを守って生活できている児童96%であった。(児童アンケート結果)引き続き児童の様子を見守っていきたい。	A	・「みんなが幸せになる学校」を合言葉に1年間、指導してきた。小さなトラブルはあるが、子供たちは落ち着いた生活ができています。 ・引き続き児童の様子を見守っていきたい。	A		人権・同和担当
	●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめ防止等について組織的対応ができている」と答える教師を90%以上	・児童の発達段階に応じた予防的開発的生徒指導に努め、毎月の「いい日アンケート」実施、毎週の職員連絡会での情報共有や協議等、全職員による組織的対応を行う。	A	・いじめ未然防止、早期発見、組織的対応に努めている職員100%(職員アンケート結果。)毎週の職員連絡会での情報共有や協議等を行っている。今後も継続して取り組んでいく。	A	・毎月「いい日アンケート」を実施し、気になる事案については、聞き取りや指導を行った。 ・担任だけではなく、学年、学校全体で共通理解を図り、取り組むことができた。	A	
●健康・体づくり	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・毎月の「いい日アンケート」の結果をもとに担任が児童と面談を行う等、児童の思いや願いを聞く機会を作る。 ・クラスで自分の目標について考え、そのために何をどう頑張るのかを考え、振り返る機会を作る。	A	・先生は、あなたのよいところをわかってくれていると思う児童89.5%、自分の夢や目標をもっている児童89.1%(児童アンケート結果)であった。今後も児童一人一人を大切にしたい指導を継続して取り組んでいく。	A	・先生は、あなたのよいところをわかってくれていると思う児童93%、自分の夢や目標をもっている児童89%(児童アンケート結果)であった。 ・中間評価よりやや向上しているかほぼ同じ結果となっている。今後も取り組みを工夫していきたい。	A		教頭、各学年主任 (※ 各学年主任)
	○進んで元気なあいさつができる児童の育成	○「自分からあいさつができた」と答える児童90%以上を目指す。	・クラスや全校で「あいさつ名人」を紹介する機会等により、進んであいさつをしようとする意欲を高める。	B	・友達や先生、地域の人などに自分からあいさつしている児童90.1%(児童アンケート結果)。あいさつのあり方については今後も、クラス単位や全校単位での取り組みの継続と向上を目指すしたい。	B	・友達や先生、地域の人などに自分からあいさつしている児童90%(児童アンケート結果)。あいさつをしていると思っている児童の中には、自ら進んでできない児童も見られる。今後とも、取り組みを継続し、更なる向上を目指すしたい。	A	・吉野ヶ里町が主催している地域の方々と6年生が語り合う「大よしゃべり場」という催しがあった。その後、子供たちから地域の方へあいさつすることが増えたように思う。来校時にもよくあいさつをしてくれる児童が増えた。	生徒指導部
	●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」と答える児童85%以上 ○「毎朝、朝食を食べて登校している」と答える児童が90%	・食育月間の実施、学級活動での食育推進、食に関する意識調査の実施 ・保健だよりの発行	B	・「健康によい食事をしていると答えた児童は、83%で県平均とほぼ同じである。「朝食を食べている」児童は92%(11月)で1学期と同じだったが、昨年度は88%なので、4%増えている。3学期の給食週間や生活(学習)がんばろう週間、児童や家庭に啓発していきたい。	B	・健康によい食事をしていると答えた児童は、79%で前回を下回った。朝ご飯を毎日食べていると答えた児童は、94%(児童アンケート結果)で前回よりやや上回った。健康を意識した食事ができるように次年度も、目標や取り組みの見直しを検討したい。	B	・朝食を食べている児童は9割を超え、一見すると改善しているように見えるが、「健康によい食事ができている」と回答した児童は8割に届いていない。何を食べているかも大切である。今後は、食事の内容にも踏み込んだ指導やアンケートを実施する必要がある。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○運動機会の確保と規則正しい生活習慣の確立	○「休み時間、元気に体を動かした」と答える児童75%以上 ○「早寝」「早起き」の児童の定着率70%以上	・運動の効果や伝え、外遊びを奨励する。 ・自分の生活習慣を見直し改善を促す学習活動の実施、保健だよりの発行	B	・休み時間に元気に体を動かしている児童77%、毎日早寝・早起きができている児童67%(児童アンケート結果)。休み時間に運動委員会による外遊び奨励の放送を行っている。今後も、取り組みの継続と向上を目指すしたい。	B	・休み時間に元気に体を動かしている児童74%、毎日早寝・早起きができている児童80%(児童アンケート結果)。早寝早起きについては中間より少し向上している。今後とも、取り組みを継続したい。	B		保健部
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。(時間外勤務の月平均を45時間以内にする。)	A	4月～11月の残業時間が昨年度に比べると月平均5時間ほど減少している。今後も退勤時刻を意識した声かけ等を行い、更なる残業時間の削減に取り組む。	A	・4～11月の職員の時間外勤務時間の月平均は19時間23分、昨年度の同時期と比べると平均10時間程度短くなっている。 ・要注意45時間超の職員数の平均は2.8人。今後とも要注意45時間超えを0にする取り組みが必要である。	A		教頭
	○教職員の勤務状況の改善	○「勤務状況の改善が図れた」と答える教師を70%以上	・定期的な衛生委員会を開き、課題の洗い出しとその解決に努める。	A	・職場環境の改善が図られているか肯定的評価をした職員は100%であった。今後も校時や行事等の見直しを継続していく。	A	・職員アンケートによる職場環境の改善が図れていると思うと回答した職員は100%であった。 ・職員から水曜日の朝の活動時間の確保の要望があり、校時の見直しを図った。今後も職員の意見を聞きながら改善に努めたい。	A		教頭
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別の配慮を要する児童の理解が深まり、対応できることが増えたという教師90%以上	・児童理解の会による職員間の共通理解 ・特別支援教育に係る研修会の実施	A	・特別な配慮を要する児童の理解と対応について肯定的な回答をした職員は、100%(職員アンケート結果)。研修会の実施や職員間の相談体制を整えるなど継続して取り組む。	A	・特別な配慮を要する児童について、関係機関と連携を図りながらケース会議を開き、より実態に応じた対応をすることができた	A	・職員が子供たちの成長を辛抱強く見守りながら、日々の学習活動に取り組んでいる。児童の様子を見ていると一生懸命に活動に取り組んでいる様子が見られ、感動させられるような場面にも出会うことができ、子供たちの成長を感じることができた。	特別支援教育コーディネーター

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○郷土愛	○コミュニティ・スクールの推進	○学校運営協議会を立ち上げ、学期に1回以上、学校運営協議会を開催する。 ○各学年で2回以上地域と連携した学習活動に取り組む。	・地域の各団体と連携し、学習活動を計画、実施する。 ・学校運営協議会にてより良い地域連携の在り方を検討する。	B	・学校運営協議会を2回開催し、様々な立場から学習活動について意見交換ができた。今後は出された意見をもとに地域と連携した活動を実施していきたい。	A	・第1学年において、老人会との普遊び体験を行うことができた。今後は様々な立場からの意見やアイデアを生かし、地域と連携してできる活動を増やしていきたい。	A		教頭

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・今年度、1人1台端末を活用した授業改善と基礎学力の定着の2本柱で研究を進めてきた。1人1台端末を活用した授業では、多くの学級で試行錯誤をしながら取組がなされた。また、基礎学力の定着の取組としては、「東脊振小スタイル」と称して、授業の流れを統一し取組を行ってきた。また、週2回のスキルタイムを継続して行い、児童が音読や計算に熱心に取り組む姿が見られた。今後は、校内研究の成果と課題を踏まえ、校内研究の在り方そのものにも焦点をあて、更なる授業改善と職員のスキルアップを図ってきたい。 ・大きな問題行動等なく、児童は落ち着いた学校生活を送ることができた。今年度は「みんなが幸せになる学校」を合言葉に、職員や児童が同じ思いをもって日々の活動を行ってきた成果である。また、職員が互いに相談しやすい雰囲気があり、小さな問題に対しても組織で対応できたことも要因である。今後は、生徒指導的な問題について共通理解を図る時間を確実に設け、全職員で対応することをさらに進めていきたい。 ・今年度からコミュニティスクールとしての取組を始めた。学校運営協議会では、子供たちのために何ができるのか活発に意見交換がなされた。今後は、地域の企業や人材等の発掘を行い、様々な体験活動や地域との交流活動を教育課程に位置づけ、学校を中心とした子供も親も地域も元気になるようなコミュニティづくりをめざすとともに、児童の豊かな人間性とともに郷土愛を育んでいけるような教育活動を工夫していきたい。
----------------	---